

# 2026年度附属中学校・学校経営計画

～生徒も教員も誇りをもって、ここに集う喜びの感じられる学校に～  
生徒の声、保護者の声、教職員の声を集めて

2026.4.7

## I.大学の第4期中期目標・中期計画(附属学校について)2022(R4)～2027(R9)

### (A)【附属学校園の取組 K19】

1. 各附属学校園において、それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献及び学校教育水準の高度化等に資するため、その成果を社会に発信する。また、大学と附属学校園が緊密に連携する「オールお茶の水」体制のもとで、連携を推進するための体制や教育研究環境の整備を図りながら研究や取組を協働して進め、学生の実習や教員の研修を行うとともに、先導的な教育モデルや教材等の開発及びそれらの成果の発信を進める。

#### 【K19-1】R8年度

- ◆ 「お茶の水女子大学附属学校園教材・論文データベース」について、次の成果を挙げる。
  - ① データベース記載件数：80件以上
  - ② データベース利用者数：3,000名以上
- ◆ 附属学校が取り組む特色ある教育モデルに関するシンポジウム・セミナー開催数：11件以上

#### 【K19-2】R8年度

- ◆ 附属学校園で実施する教育実習受入数：100名以上
- ◆ 附属学校園におけるインターンシップ受入数：35名以上
- ◆ 教員FD実施数：4回以上
- ◆ 上記FD参加者に対するアンケート結果において、大学と附属学校の連携に関する意識向上及び授業改善に活かすことができたとする割合：80%以上

### (B)【その他、大学の各機関と連携した取組】

1. サステナブル社会実装機構(SDGs推進研究所)との連携【K3】

【K3-2】R8年度:令和7年度に実施した「第2回 SDGs 認知度調査」の集計と解析に基づき、SDGs 推進に向けた更なる学内の意識向上を図るための施策を検討し、実施する。また、大学と附属学校園が協同し、SDGsの達成を推進できる人材育成と、OCHA-SDGs 学生委員会のプロジェクトの支援を継続する。さらに SDGs に関わる社会課題解決のための教育プログラムを企業や自治体と連携しながら開発し、実施する。

2. 総合知開発研究機構との連携【K5】

【5-1】コンピテンシー育成開発研究所:附属学校園と連携し、コンピテンシー育成を柱とする幼児期から大学卒業までの段階的教育モデルの開発・実践・発信に取り組む。

R8年度:コンピテンシーの一貫教育モデルを構築するため、コンピテンシー・ベースの教育実践や、教材開発、学生等のコンピテンシー測定を継続するとともに、コンピテンシーの一貫教育モデルに基づく教育実践を開始する。附属学校園における段階的育成モデルの実践を継続する。

【5-2】理系女性育成啓発研究所:初等中等教育における女性の理系進路選択の促進、附属学校園との連携による理系人材育成プログラムの開発を、「サイエンス&エデュケーション研究所」では災害時レジリエンス教育を地域の小中高校の児童・生徒と教員に対して実施する。

R8年度:理系女性育成啓発のために全国的女子中高生・保護者・教員を対象としたシンポジウム・セミナーを継続して開催する。また、令和7年度に引き続き、附属学校園と連携した取組を継続する。理系女性に必要なコンピテンシー育成の観点を基盤とする取組を継続する。附属学校園と連携した理系人材育成プログラムの開発:理系人材育成プログラム開発。

【5-3】サイエンス&エデュケーション研究所:災害時レジリエンス教育を地域の小中高校の児童・生徒と教員に対して実施する。

R8年度:連携する自治体・学校と協力して、個別観察実験を重視した対面およびオンライン授業コンテンツを開発し、理数教育支援を行う。具体的には、小・中・高校教員に対する理科教員研修、児童・生徒に対する理科出前授業や授業支援、一般市民に対する公開講座を開講するとともに、SSH連携校の生徒等に対する課題研究支援を行う。また、令和7年度に引き続き、災害時におけるレジリエンス教育・研究を推進する。

## Ⅱ. 附属中学校の教育目標

〈学校教育目標〉「自主自律の精神を持ち、広い視野に立って行動する生徒を育成する。」  
〈教育の3つの柱〉「あたたかく深い人間力」の育成  
「グローバルな視座」の育成  
「科学的・論理的思考力」の育成

## Ⅲ. 附属中学校カリキュラムポリシー

1. 自主自律の精神を持ち、広い視野に立って判断・行動し、習得した知識・技能を活用しながら社会の中で他者と協働し、自分らしく生きる生徒を育成する。
2. カリキュラム研究、帰国生徒教育研究、新しい教育課題に対する実践的な研究の成果を生かし、探究する楽しさを見出し、変動する社会の中で主体的に生きる力を育成する教育課程を編成する。

## Ⅳ. 附属中学校の学校経営方針

### 1. 中長期の展望に立った学校運営の方向性

(1) 使命(ミッション) \* 自主の心、自律と自治の力を備えた生徒を育てていくこと

- ① 前期中等普通教育を行い、生徒の自己実現を図り、適切な進路を選択し進めるようにする。
- ② 国立大学の教育研究機関としての附属学校の役割を果たして、学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、先導的な教育モデルや教材等を開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上をめざす。
- ③ 大学との連携のもと、教育実習生やインターンシップの受け入れや、教員FD(Faculty Development: 大学教員団の資質開発)を行うなど、附属学校としての十分な機能を果たす。
- ④ 共同研究の場を提供し、研究の成果を広く内外に公開・発信して社会貢献を果たす。

(2) 展望(ビジョン)

- ① 教育目標の実現を図り、「多様なステージで活躍できる行動力のある人間」「多様な人々と問題意識や課題を共有できる懐の深い人間」を育成する。
- ② 「オールお茶の水」体制のもと、大学の研究所等と連携しながら、社会を革新する人間の育成をめざした先進的、先導的な教育モデルや教材・指導法の開発研究を行い、公教育への提案と還元を行う。
- ③ 大学の教育実習やインターンシップ、教科教育法の授業等を積極的に担当し、これからの教育を担う意欲的で実践力のある高度な教育力をもった教員の養成に協力する。
- ④ 国内外の教員交流及び学校視察や参観等を積極的に受け入れると共に、研修講師派遣や研究協議会等の公開を通して、教師の研究力・指導力の向上や学校教育の高度化に寄与し、社会貢献に努める。

(3) 目標(ゴール)

- ① 教育課程:
  - ・教育目標の実現をめざした授業や教育活動を立案・実施し、すべての生徒の個別で多様な学びを促すとともに、自主自律の精神を涵養し自治能力を育成する。
  - ・生徒一人一台端末をはじめとするICT環境を生かして、学ぶ意欲を高め、学習成果を高める指導法や評価法を工夫し、生徒の主体的な学びを一層支えていく。
  - ・本校のこれまでの研究実績を土台にして、これからの社会を革新する教育内容・方法の提言につながる研究を創出すべく、開発研究の指定を目指す。
- ② 学校運営:
  - ・人的組織、経費運営、施設・設備等を適切に整備し、附属学校本部会議、附属学校委員会、教育研究推進専門委員会との連携のもと、柔軟で機動性に富んだ学校環境を構築する。
  - ・生徒にとって安全・安心な教育環境を整備するとともに、開かれた学校に向けての取り組みを推進する。
  - ・ICT環境を活かして校務全般を見直し、効率よい学校運営体制を作っていく。
- ③ 大学との連携:
  - ・大学との連携を密にし、大学の支援や助言を得ながら、中学校の教育および研究の成果を高めていく。
  - ・附属学校として、コンピテンシー育成開発研究所・理系女性育成啓発研究所・SDGs推進研究所等と連携した種々の教育研究活動に積極的に寄与しながら、本校の教育研究・実践を一層充実させる。
- ④ 社会貢献:
  - ・視察や参観・研修の受け入れ、公開研究協議会の開催や研究紀要等を通じて研究成果を公開、発信する。

## 2. 2026年度の経営計画

### (1) 学校経営における2026年度の重点課題

【前提】本校の様々な強みを生かし、またこれまでの教育研究の蓄積を踏まえて、日本の教育に提言を行える新しい学校像を、生徒たちとともに作っていく。

- 本校の強み ・多種多様な力や可能性をもった個性的な生徒たち
- ・きめ細やかで、一人ひとりを大切にする学習・生活指導に優れた魅力的な教師集団
  - ・大学や他の附属校園との連携、外部の専門機関とのつながり
  - ・保護者、同窓会や教育後援会等の人的、財政的支援

①教育課程(個に応じ多様性に学び合う教育課程) ◎は新たな重点、○は継続的な重点

○生徒たちの「個に応じた学びの場、協働的な学びの場」をつくり、学習語彙に着目して授業づくりを行うことを通じて、知識・技能を習得して協働的に課題解決を果たしていける生徒を育てる教育内容・指導方法等を研究開発する。→ICTの効果的な活用

◎研究開発学校指定研究「生徒の深い理解を促し教科を超えた学習語彙の活用を支援する新教科「知の架け橋」を設置し、日常的に学習語彙に触れ、探究的な学びにおける言語活動の指導を通じて、各教科・領域の学びが互いに関連し合い、相乗効果を生み出す教育課程の開発」(開発課題より)の研究基盤を形成する。

①学習語彙の体系的収集・整理と、共有

②教科横断の学習語彙の活用を支援する教育課程の編成(新設教科「知の架け橋」)

【2026年度の主な取り組み】

- ・各教科において、重点的に学習語彙を活用した言語活動を実施する単元・題材を設定し、学習語彙の理解と定着を図るとともに、教科間の連携に必要な学習語彙データベースを検討する。
- ・モジュール型活動を導入する(数週間につき10~20分間の「知の架け橋」タイムを設定する)。
- ・ユニット型プロジェクト学習を試行する(教科を超えた探究的な学びにおける語彙の実践的活用)。
- ・生徒の語彙理解度の変化や思考の深まりを測定し、学習語彙の活用と質的な変化をとらえる。

○帰国生の学びの姿をつぶさにとらえて日々の帰国生教育を見直し、本校の取り組みを公開・発信する。

→ R6・7年の検討を踏まえ、帰国生入試のさらなる改善を目指す。帰国生学級の手引きの改訂。

②学校運営(生徒も教師も充実感・効力感をもてる学校づくりの[3つ]の視点)

[互いを認め合い安全・安心で心地よい学校の基盤づくり]……生徒指導・教育相談・人権教育

◎生徒一人ひとりに寄り添った生活指導、進路指導を行い、生徒たちが安心して学べる学校、将来への基盤となる学校の実現を目指す。

→ 部活動を中心に、教員の負担減を図りつつ、放課後活動の多様化と生徒にとっての充実を図る。

→ いじめ防止対策基本方針・同マニュアルの活用と改善、早期発見の工夫で安心安全に学べる学校をつくる。

◎災害安全・生活安全・交通安全の三つの視点から訓練を行い、学校内外の安全な環境を構築する。

[働き方改革に立つ学校づくり]

◎校務を様々な観点で見直して精選・効率化を進め、教師がゆとりと充実感を持てる学校をめざす

・学校改革委員会の継続により部活動改革と放課後活動の多様化の実現を図る。

・校務分掌組織(各部・教科・学年)事に検討し、日常的な校務の削減を図る。

各分掌組織が積極的に検討・提案し合って改善・改革の基盤を形成していく。

→ R7学校改革委員会の総括をふまえ、全校を挙げてこれらの実現を目指す。

→ 重点化・焦点化、発想の柔軟化・弾力化、外部人材の活用、生徒や保護者の積極的な活用。

[学校づくりの基盤づくり]

◎新設の経営広報部を中心に、学校の中長期的視座に立った戦略的な学校づくりを構想・実現していく。

◎教育の三つの柱(科学的・論理的な思考、グローバルな視座、温かく深い人間力)の実現を図る。

→ 「温かく深い人間力」の育成の重点化=いじめの無い学校を目指したさまざまな取り組みを進める。

○生徒の声に耳を傾けるとともに、保護者との連携・細かくも丁寧な情報共有のいっそうの充実を目指す。

○魅力あるお茶中の発信・生徒獲得のための広報活動・入試改革を進める。

→ 提携校の継続決定(R15年まで)をふまえ、内外への進路情報の発信を工夫していく。

◎校費・寄付金・預かり金を効果的に運用していく。

○運営基金(後援会寄付)、遺贈寄付・80周年寄付等を活用し、施設面および防災備品等の整備を進める。

○教員研修の充実と改善を図り、教員個々の教育実践・開発への意欲を高め教育力の向上を図る。

→ 他校研修を始めとした研修機会の有効化。

→ 校内研修の効果的な見直し(いじめ対応・生徒理解:ケース研究等、働き方改革:話し合い等)

◎教職員の声を聞く副校長面談等を設定し、所属感と効力感のある働き甲斐のある学校を作っていく。

### ③80周年記念事業(R9年度)の推進

- R9年12月の記念式典開催を目指して、実行委員会(企画委員会+記念誌編集担当)で準備を進める。
- 事務(中学校・財務等)と連携して、寄付金の募集と適正な活用を行う。

### ④大学との連携

- 附属学校課・附属学校園と協調しながら、大学の諸機関(コンピテンシー育成開発研究所、理系女性育成啓発研究所、SDGs推進研究所等)と連携しながら、円滑な情報共有を図る。
- 教科教育法等の授業、教育実習等における学校DX対応を進めつつ、インターンシップ、キャリア副専攻等では大学との連携を図りながら、各教員の教育力を高める。

### ⑤社会貢献

- 特色ある授業開発・研究を行い、その成果を公開研究会、教材・論文データベース等において広く公開する。
- 帰国生徒教育の研究的実践を継続的に進め、その成果を学校関係者、生徒や保護者等に還元する。
- 学校視察や参観、研修員の受け入れ手順を引き続き整備して可能な限り実施するとともに、公開研究協議会の開催や研究紀要等を通じて研究成果を積極的に公開、発信する。

## (2)各校務分掌の重点目標

### ①経営広報部 次世代の教育環境を拓く～「創造性」と「well-being」を、学校の「価値」に変える～ 経営企画部門

- 会計処理期限のリマインド、「会計ポータル」をより充実させるなど、迅速な会計処理を促す。
- 管理する施設・設備、備品・消耗品について、事前の対策(点検、在庫管理)・事後の対応(営繕依頼、廃棄)で、いつでも使えるようにする。
- 職員室の整備、美化をすすめ、快適に働くことができる環境を整える。

### 広報情報部門

#### 【安全で安定した環境構築】(情報)

安全かつ安定したICT環境を維持し、Google Workspace for Education Plusを活用することでより高度なセキュリティの確保、ライフラインとしてのICT環境構築を目指す。

#### 【人員・時間・コストのバランス維持】(情報)

お茶中のニーズを的確に把握し、人員・時間の制約下で、コストを抑えつつ最適なICT環境整備を目指す。

#### 【複数のツールによる持続可能な発信】(広報)

複数のツールを活用した質の高い広報活動を展開し、教職員の負担を考慮した持続可能な広報を推進する。

#### 【生徒と共にDXよりよい学校づくり】(情報 広報)

迅速な情報共有と円滑なコミュニケーションをDXにより実現し、組織の活性化を図る。また、情報モラル育成のための指導体制を確立し、他分掌やDXアドバイザーと連携しながら、働き方の改善を念頭にいたよりよい学校づくりを目指す。

## ②教務部

### ○校務プロセスの再構築による「ゆとり」の創出

・ICTの活用促進と業務フローの見直しにより、ミスを排し、精度の高い校務を効率的に遂行できる土台を構築する。

### ○生徒情報の一元管理による指導の質の向上

・情報の「点」を「線」につなげ、進路指導や生徒理解に即座に活用できるデータ管理体制を確立する。

### ○教育課程の可視化と独自性の追求

・「総合的な学習の時間」を核とした教育課程を整理し、校内の共通理解を深めるとともに、外部へ本校の魅力を発信できる形に整える。

#### <重点項目>

#### ①教務関連校務の効率化:ミスゼロでスマートな組織へ

・事務的な負担を「期末・年度末」に集中させず、日常の中で分散・効率化する仕組みを整える。

#### ②生徒情報の一元管理:必要な情報へ「1クリック」でアクセス

・点在している生徒情報を校務支援システムへ集約し、活かしたデータに変える。

#### ③教育課程の整理とアウトライン提示:本校の「強み」を語れる土台作り

・「学年の特色ある実践」を「学校としての魅力ある教育課程」として再整理する。

## ③研究・帰国部

(1) 研究推進委員会と連携し、研究開発2年次として、新教科「知の架け橋」の授業実践、研究内容の発信を支える。

- (2) 自主研究ガイドの充実と指導法の共有、探究的な学習活動における言語活動の充実のカリキュラム作成。
- (3) 帰国生徒教育50周年、“帰国生教育の新たなスタート”に向けて、帰国生・グローバル教育研究の共有化と推進。
- (4) 生徒・教員の学ぶ環境づくり。
- (5) 積極的な研究情報の発信と交流。(大学・附属・外部研究機関との連携。視察・研修の受け入れや交流)

#### ④生徒指導部

##### 【2026年度の生徒指導部の重点目標】

- (1) 生徒一人一人の尊厳と人権が尊重される学校づくりを推進する。
- (2) 落ち着いた学習環境を整え、個に寄り添った指導の充実を目指す。
- (3) 安心・安全な学校づくりにむけて学校の危機管理対応について関係機関と連携をとりながら見直しを進める。
- (4) 情報社会で適正な活動を行うためのもととなる考え方と態度を育む指導の充実と整備を進める。
- (5) 生徒主体の教育活動を展開しながら、委員会や部活動の活動内容の精選と見直し・再配置を進める。
- (6) 全教員での指導内容の共通理解を進め、放課後の活動時間を生み出すことや下校時間の順守(時間管理)、服装などに関する生徒の自律を意識的に支援する。

##### 【2026年度最重点項目】

関係各所(SC,SSW,SL,いじめ対策委員会)との連携を取りながら、いじめやSNSトラブルを未然に防止し、他者を尊重する集団作りに向けたきめ細やかな取組(講演・道徳の授業・教員研修)を進める。

### (3)各学年の教育目標

1年 学年目標:「つくる」自主自律の精神を持ち、広い視野に立って行動し、「自己や社会、未来をつくる生徒」を育成する。(主任:渡邊)

「つくる学年10の姿」:問い続ける人・整える人・振り返る人・つながる人・コミュニケーションができる人・寛容な人・想像する人・つくる人・挑戦する人・〇〇の人(各自で設定)

#### ■重点目標:「気づく、広げる、つくる」

自己との関わり:さまざまな人・もの・ことと出会う中で、自分の興味・関心・強みに気づき、「なぜ」「どうすれば」と問いのアンテナを広げる。

他者との関わり:心を開いて他者とつながり、互いの違いを寛容に認め合い、一人ひとりが自分らしさを発揮できる仲間関係を広げる。

社会との関わり:安心して自分を出せる学級・学年の土台を仲間とともに作りながら、学校の外にある多様な社会に触れ、「社会とはこういうものか」と気づく。

2年 学年目標:「紡(つむぎ)」(主任:有友)

#### ■重点目標:「おりあむ」～紡いだ糸の絡み合いを楽しむ～

- (1) 多様な見方・考え方に触れ、自分なりの考え方や判断基準を磨く。
- (2) 個人だけではなく、集団としてより良い方向に向かうために働きかける。
- (3) 社会の物事への興味・関心を広げながら、自分や仲間のこだわりを見つめ、選び、深める。

3年 学年目標:「奏(かなでる)」(主任:大塚)

#### ■重点目標:「なしとげる[奏功]」～様々な人・物事・力を活かし合い、よりよい未来を創りだす～

- ①「成しとげる」自分の生き方を考え、自主的・自律的に行動し、自己の進路を達成する。
- ②「つなげる」自分の立場や役割を自覚し、仲間と協働しながらよりよい方向に向けて進め、伝統を次代に引き継ぐ。
- ③「働きかける」社会の未来について広い視野をもって考え、多様な価値観を持つ仲間と高め合いながら、社会の様々な課題に働きかける。